二色小学校
第五中学校版

教育ほっとらいん

令和 4年 2月 1日
発　行　貝塚市教育委員会教育部学校教育課
ＴＥＬ　072-433-7113

第３回 第五中学校区義務教育学校設置説明会を開催しました

１月２０日（木）に、第３回第五中学校区義務教育学校設置説明会を浜手地区公民館にて行いました。当日は、２４名の皆様にご参加いただきました。ありがとうございました。

今回の説明会は２部制とし、第１部は守口市立さつき学園の水川登志雄校長をお招きし、義務教育学校での学校生活の様子や取組み、地域とのつながりなどについて、具体的にご紹介いただきました。第２部では、参加者の皆様との意見交換を行いました。その内容についてお知らせします。

第１部「義務教育学校　守口市立さつき学園について」

守口市立さつき学園は、２０１６年に開校した義務教育学校で、現在前期課程４１５人、後期課程２０５人に加えて夜間学級も併設しています。保護者アンケートによれば、「子どもは楽しく学校へ通っている 89.2%」「子どもたちに思いやりの心や優しい心が育っている 94.4%」「子どもは授業が楽しくわかりやすいと言っている 89.2%」と、約90%の保護者が肯定的な印象を持たれているようです。

○さつき学園の現状から見える義務教育学校のメリット

- ９年生は、１年生から９年生まで９学年の最上級生としての自覚ができ、全校児童生徒の目標になる。
- 後期課程の生徒は、１年生と同じ空間で生活することにより、昔の自分を振り返りながら優しい気持ちで生活できる。
- 前期課程の児童は、後期課程の生徒のテストや部活動等の様子を見ることにより、将来の自分のイメージを持つことができる。
- 児童会生徒会活動では、１年生から９年生まで学校全体のことを意識しながら取り組んでおり、「学校をよくしたい。」「先輩が取り組んできたことを引き継ぎたい。」という気持ちが自然に育っている。
- 前期課程・後期課程の相互乗り入れ授業が促進され、専門性の高い授業の提供が可能になる。
- ５年生から５０分授業、６年生から教科担任制など、独自のカリキュラムを作りやすい。
- 子どもたち一人ひとりのことを知っている教員が多い。特に後期課程の生徒にとって、前期課程と後期課程両方に相談できる教員がたくさんいることで、不登校になるケースが少なくなった。
- 支援学級に在籍している児童・生徒は、１年生の時から自分のことをよく理解してくれている友だちと生活しているので、安心して活動することができる。

以上の点がメリットとしてあげられました。一方、「さつき学園では課題はあってもデメリットは感じていない、そしてその課題はこれからの学園の「のびしろ」にあたると考えています。」と話されていました。

○義務教育学校の学校生活～さつき学園の学校経営方針から～

①学びをつなげる

９年生の家庭科「保育」の単元でオリジナル紙芝居を作り１年生に披露したり、６年生の広島への修学旅行での外国の方へのインタビューを９年生が翻訳するなど、前期課程と後期課程の学びをつなげる活動を行っている。

②人がつながる

前期課程の児童が後期課程の生徒の活動に憧れをもち、後期課程の生徒は前期課程の児童を優しいまなざしで見守り、子どもたち同士がつながれるような活動を行っている。具体的には、児童会生徒会活動や文化祭をはじめ、体育大会で最終種目として行われる１年生から９年生までバトンをつなぐ紅白リレー、６年生がリーダーとして行われる全校遠足などがある。

③地域とつながる

ＰＴＡは前期課程と後期課程とで１つの組織となり、開校時、会長は前中学校の会長、副会長は前小学校会長に就任いただいた。また、「地域は子どもたちの応援団である。」として、地域のみなさんには、登校時の声かけ活動や校庭の一角をバタフライガーデンとして整備し蝶が舞う庭にする活動など、様々な教育活動にご参加いただき、ご協力いただいている。

水川校長は学校生活について具体的にご紹介くださり、「義務教育学校になるとすべて解決できるわけではありません。学校の先生の努力、地域の方の協力、そして保護者の方のご理解が必要です。」と締めくくられました。

○教職員はどのように感じているのか

教職員の声として

- １つの学校になって、仕事などお互いを知ることができた。前期課程と後期課程の先生同士が話をする機会が大切だと思う。開校当時は戸惑いもあったが、校務分掌の担当が整理され、結果的に仕事が軽減できた。
- 小学校の時に関わっていた子や担任だった子が、中学生になって活躍している姿や、９年間の成長を新たに見ることができ、成長した子どもとの関わりを楽しんでいる。
- 後期課程の生徒が前期課程の児童に対して穏やかでていねいに対応している様子が見られる。後期課程の生徒がいつも元気に、真面目に学習や部活動に取り組んでいる姿を見て、前期課程の児童は憧れと自分たちも頑張ろうという気持ちになっている。

このように、今までの小学校と中学校という垣根を越えて、子どもたちと積極的にかかわろうとする教職員の姿が見られ、教職員の顔が優しくなったと感じられたとのことでした。

○義務教育学校に関する質問（さつき学園の対応について水川校長にお答えいただきました）

Q1. いじめが起きた場合、人間関係が固定的であることが気になるが・・・

A．生徒指導上の問題の８割は前期課程で発生し、後期課程の教職員も協力して校内体制で指導しているため、後期課程でのトラブルは減少している。いじめがないわけではないが、校内体制でいち早く対応し解決にあたっている。

Q２. 後期課程の定期テストなどの期間中はどのようにしているのか。

A．前期課程の児童はテストについて理解していて、いつもよりも静かにするように自然と意識している。テストに取り組んでいる後期課程の生徒の姿を見て、前期課程の児童は将来の自分を重ね、キャリア教育にもなっている。

Q３. 色々な活動をされているが、そのことが教職員の多忙化につながらないのか。また、どの地域でもできることか。

A．後期課程の生徒が前期課程の児童とともに積極的に活動し、リーダーシップを発揮してくれている。勤務時間についてはこれからの課題としてとらえている。どの地域でもできるのかと言えば、地域の方にご理解いただき協力いただくのには一定の時間はかかると思うが、その後に熟成し、よい学校になっていくと考える。

Q４. 中学生になるとみんながＳＮＳを始めるが、小学生に影響はないのか。ネットの対策はどうしているか。

A．ＳＮＳについての問題はさつき学園でも起こっているが、後期課程で起きるトラブルについて、前期課程から見据えた指導をすることができている。前期課程と後期課程両方の教職員がいることは生徒指導上とてもよいことだと感じている。

第２部　意見交換（参加者から寄せられたご意見やご質問と参加者アンケートから一部抜粋しています）

○保護者の参加が少ないことが気になった。義務教育学校については保護者の理解が第一条件であるから、保護者が集まる内容や時間帯などを考えるべきである。また、五中の跡地利用についてよく考えてほしい。

→保護者アンケートにより参加しやすい時間帯として開催したが、参加者が少ないのが現状であることは認識している。五中の跡地については、現時点では未定であるが、避難所機能や学校施設開放は、跡地の活用が決まるまでこれまで通り続けていく。

○少子化のために効率化を図るのは仕方ないが、その形が義務教育学校でよいのか。パークタウンは公務員宿舎などがある関係で、転勤による転校がほかの地域より多い。その地域に義務教育学校はなじまないと思う。児童や生徒の数が今より減ったとしても、義務教育学校は存続するのか？

→視察を重ねた結果、パークタウンの状況を考え、より多くの児童・生徒が１つの学校で活動できる義務教育学校の設置がよいと判断した。子どもの数が減っても一旦設置した義務教育学校は存続させていく。

○保護者の参加が少ないのが気になった。参加していない人にも情報を届けたいと思っている。子どもの話では友だちとみんな一緒にいられることに安心感がある様子で、楽しみにしているようだ。一中と統合されるよりも今の方がよい。

○２つの学校が１つの学校になるが、学校に配分される予算や教職員数はどうなるのか。先生方が多忙になると考えられるので、それなら義務教育学校にしなくてもよいのではないか。

→２つの学校の予算の合計が配分されることになる。教職員数も２校分の人数が配置される。義務教育学校になれば軌道に乗るまでは教職員の負担が大きくなることが考えられるが、開校当初は、府から教員の加配などの配慮も考えられると聞いている。

○文部科学省によれば、学校の統廃合は地域住民と将来のビジョンの共有が必要であるとのことだが、義務教育学校の設置を決まった路線として進めていくのはそれに反している。この件について一旦ストップすることを求める署名が約600集まった。義務教育学校の目的に中一ギャップの解消をあげているが、文部科学省のリーフレットに中一ギャップは広めてはならないとされている。

→義務教育学校の設置は五中校区の子どもたちの教育環境を考えた方向性であり、保護者や住民のみなさんにご理解いただけるよう今後も進めていく。小中間の段差により起こる問題、いわゆる中一ギャップについては、その一言で安易に片づけてはならないと認識している。市内においても、今も起こっている問題であり、解決していく必要があると考えている。

○今日のさつき学園については受験の予備校のように感じた。中学生と言えば羽目を外したい時期だが、抑圧されているようで、大人に都合のいい学校だと思う。五中の卒業生には、五中がなくなることを知らない人が多い、母校がなくなるのはさびしいことであるし、卒業生にも伝えてほしい。

○未就学児の保護者としては、この地域に学校が残ることが最大の希望。仮に今の形のまま二色小と五中が残ったとしても、五中が統合されることが考えられるので、大規模中学校へ進学することが心配。地域に学校を残すため、今の案が妥当だと思う。

○保護者の参加が少ないのが気になった。時間が合わないこともあるが、毎回同じ人による、子どもたちの学校生活とは無関係な内容の議論が繰り返されていることも一因だと思う。純粋に子どもたちのことを考えた保護者中心の意見交換をしてもらいたい。

○校長先生のお話がとても分かりやすかった。子どもとも今日の内容を話し合いたい。

○校長先生のお話を聞いて、将来的にさつき学園のような実践もできるのかもしれないと思うと、楽しみにもなった。

○さつき学園の説明はわかりやすかったが、後期課程の生徒に負担がかかっているイメージだった。

○さつき学園の話はいいことばかりが紹介され、何も問題が起こらなかったことにびっくりした。今回の五中校区の義務教育学校設置は、どんな過程を経て今の方向に至ったのかをもっと詳しく示してほしい。

○さつき学園の事を聞いて具体的なイメージができた。大人に都合のいい学校という意見が出たが、そうは思わなかった。反対の署名が600ほどあるとの話もあり、説明会では反対意見が多いように感じるが、一方で保護者アンケートでは７割が賛成であり、自分の周りでもおおむね好意的である。参加しない人はサイレントマジョリティなのかと思った。

○問題解決の具体的なプロセスについて、もう少し内容を話してほしかった。

○９年間１クラスで過ごすのはマイナス面が多い。さつき学園は生徒数が多いので、二色地区とは感じが違うと思う。

○今回はさつき学園についての紹介があっただけで、五中校区の義務教育学校についての議論が進展していないように感じた。保護者が説明会に来ないのは、設置に異論がない層が多くなったのかもしれず、説明会を繰り返しても無駄かもしれない。

○卒業生にとって五中がなくなるのはさびしいとの声があったが、二色小も母校である卒業生にとっては、五中と二色小２つの母校が新しい学校になることはさびしいことではない。五中が一中に統合されることが本当の意味での五中がなくなることだと思う。